

A. A.（社会システム学科・2 年次生）

1. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私には中学生の頃から留学したいという夢がありました。中学生の頃に洋楽にハマリ、その頃から海外の文化に興味を持つようになりました。自然と英語も好きになり、英会話にも通っていました。大学入学後は CASE という英語の授業を全てネイティブの先生から教わることでできるコースを受講し、英語の勉強ができる環境に身を置いていました。英語を通してコミュニケーションを取ることや、いつか日本の外の世界、異文化に触れることのできる環境に身を置いてみたいと思っていたので、このsemester 語学留学を見つけ、すぐに応募しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学決定から出発までに、まずはビサの取得をしました。しかしコロナ禍だったため、出国ギリギリまで国境が開くのを待っているという状態でした。国境が開いてからは、すぐに航空券を購入しました。その時には出発まで1か月を切っていてギリギリでしたが、なんとか出国できました。また、少しでも英語能力を上げようと大学の Chat Room を利用し、ネイティブの先生とほとんど毎日英会話の練習をしていました。

③ 現地到着後

現地にはオリエンテーションの3日ほど前に到着しました。ゴールドコースト空港に到着してすぐに SIM カードを購入し、その場で店員さんにセットしてもらいました。空港からは学校が手配してくださったドライバーさんにホストファミリーの家まで送迎してもらい、無事ホストファミリーの家に着きました。荷解きをし、その後2時間ほどホストマザーと家の案内や日本の話、これからのスケジュールについて話しました。拙い英語でも一生懸命聞き取ってくださる、優しいホストファミリーでした。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

Griffith University は大きな大学で、24 時間空いている図書館やジム、バスケットコートやビーチバレーのコートがありました。カフェテリアやレストランも充実していて、放課後に友達と利用していました。特に Uni Bar と呼ばれている bar は、お酒を楽しむことができ、みんなでビリヤードなどをして楽しんだ思い出の場所です。私は、授業前や放課後に友達とジムに通っていました。トラムの駅やバス停も大学の目の前にあり交通の便は良かったです。

b. 授業内容・課題・試験

毎日の宿題は慣れるまでは多く感じました。また、オンラインの自主学習機能を使用して、隙間時間に自分のペースで英語の苦手分野克服のために時間を使うことができました。5週間ごとにクラス分けのための試験があるのでそれに向けて勉強に励んでいました。私がオーストラリアに到着した当初は、国境が開いたばかりだったこともあり、日本人の割合は少なく、クラスは多国籍でした。始めのオリエンテーションでできた友達とたまたま同じクラスだったこともあり、すぐに仲良くなりいつも一緒にいるようになりました。先生はとても優しく面白く、質問をすると私が分かるまでいつも丁寧に教えてくれました。

⑤ クラブ・課外活動・ボランティア活動

私はクラブ活動には参加していませんでしたが、毎週行われる GELI のアクティビティに参加していました。このアクティビティに参加することで新しい友達作りや英語を話す機会ができ、とても良い経験になりました。動物園に行ったり、みんなでカフェテリアに行ってお喋りをしたりと様々な活動があり、友達の輪もすぐに広がりました。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先はオージーのホストファミリーで、留学生をよく受け入れている家庭でした。私以外にも3人の留学生が入れ替わりながら常にいました。ベトナム、フランス、ドイツ、ノルウェーの女の子達と住んでいました。家に帰ってから話すことができ、英語をふんだんに使える環境が整っており、とても良かったです。また年齢も近かったため、より日常的に若者の使う言葉をたくさん教えてもらうことができ、学んだ言葉をすぐに使える環境でした。夜ご飯には、白ごはんが出てくることもあり、日本食が恋しくなることはあまりありませんでした。味付けもすごく美味しくて日本に帰国してからも懐かしく思うことが多かったです。家は大学から近かったため、毎日歩いて学校へ行っていました。家の近くにはトラムの駅やバス停も近く、遠出もしやすかったです。特にトラムは毎日のように使っていて、便利な交通手段でした。海外なので遅延が生じることは日常的なのかと思っておりましたが、遅延はほとんどなく、時間通りに来ていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期というほどの休みはなかったのですが、週末にブリスベン、シドニーへ行きました。ブリスベンは電車で1時間のところがあるので、何度か訪れました。私が滞在していたゴールドコーストよりも都会でビジネスの街という印象でした。シドニーへは、飛行機を利用しました。友達とホテルを予約したり、飛行機の安さを比較したり、英語を使って旅行のプランを立てるのは楽しい反面、少し緊張しました。シドニーとゴールドコーストでは飛行機で2時間程の距離でしたが気温がガラリと変わるので、不思議な感じがしました。また、一緒に行った友達の従兄弟がシドニーに住んでいて様々な所に連れて行ってくださり、市街

地の外へも足を運ぶことができました。また、ヨーロッパ風の建物が多く植民地時代のイギリス文化が残っていてとても素敵な景色でした。

日本へ帰国する前はメルボルンに5日間滞在し、観光をしてから帰国しました。友達9人で旅行をしたので宿代は安く済みました。夜ごはんをみんなで作ったり、お酒を飲んだりして、とても楽しかったです。また、メルボルンは私が訪れたことのある都市の中で一番と言ってもいいくらい本当に大きい街でした。無料トラムが市内を走っていたので移動は便利でした。市内から少し離れたところにある、Half Moon Bay という場所から見たサンセットは一生忘れられないくらい素晴らしい景色でした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

クラスの友達との何気ない毎日を過ごしたり、冗談を言い合ったりしたことが本当に楽しかったです。放課後にビーチへ出かけてダラダラしたり、少し遠出をしたり、様々なバックグラウンドを持つ人たちと友達になったり、友達の母国の料理と一緒に食べたりしたことが本当に楽しくて大切な思い出です。特に仲が良かった2人の友達がいました。その子たちとはクラスも授業時間も違いましたが、自然と学校が終わると一緒に居るようになりました。私が帰国する前の数日間は、その子たちとお泊まり会をし、お別れを言いながら号泣したことがとても心に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

私が留学中に最も苦労したことは、自分の居場所作りです。友達から留学前に「家の中、学校、学校の外、様々な所に自分の居場所を作ったらいいよ」とアドバイスをもらっていました。そのため、ホストファミリーとの時間を大切に過ごし、家の中でも1日の出来事をたくさん話すようにしました。そして、学校では毎日、たくさんの人に積極的に話しかけていました。学校の外では、学校主催のアクティビティに参加し、友達の輪を広げました。私が特に仲の良かった2人の友達とも、そのアクティビティを通して出会いました。5か月という限られた日々を毎日無駄なく過ごし、多くの新しいことに挑戦しました。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

オーストラリアはスーパーやショッピングモールなど、商業施設が7時には全て閉まってしまいます。そして就寝時間もとても早かったです。10時にはホストファミリーは就寝していて、自然と私も早く就寝し、朝早くに起床するようになりました。また、オージーのアクセントの強さにも驚きました。英語が完璧に聞き取れないことに加え、訛りのあるネイティブの英語は本当に聞き取るのが難しかったです。ですが、聞き返すと分かるまで丁寧に話してくれたり、言い方を変えてくれたり、間違いも笑って冗談にしてくれたり、心優しい人が多かったです。また、フレンドリーな人も多く、道ですれ違う時や、同じエレベータ

一に乗り合わせた時に、話しかけてくれる人が多かったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

パソコンと変圧器、延長コードは必須だと思います。また、私はコンタクトレンズをオーストラリアでネット購入しようと思っていたのですが、船代が高かったこともあり値段が高くて断念しました。コンタクトレンズの洗浄液はスーパーなどで買えるので必要ないですが、コンタクトレンズは日本から持って行くことをお勧めします。また、英語の処方箋があれば、現地で購入する際に役に立つと思います。また、紫外線が強いので、こだわりがある人は日本から日焼け止めを持って行く方がいいと思います。

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力が格段に上がりました。その後の TOEIC のテストで特に伸びていた部分もリスニングで、嬉しく感じました。また、映画や YouTube で英語の動画を見る際、理解できていることに気づき成長を感じました。留学前までは耳を慣らすために聞くことが多かった英語のラジオや動画も今では楽しむことができ、分からない単語が何なのか明確に聞き取れるようになりました。また、学校で出会った留学生と英語で会話をする機会があり、英語を話すことへの不安感がなくなり、話すことが楽しいと感じるようになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

英語学習は日本でもできますが、やはり現地へ行くと明らかに英語の習得が速いと思います。友達もたくさん作ることができ、教科書では習わないようなよりネイティブの英語を学ぶことができました。この半年でできた友達、思い出は一生忘れないと思います。英語の学習はもちろん、新しい環境で様々な人から影響を受け、新しい自分と出会うことができ、自分と向き合えた有意義な時間だったと思います。この留学に参加するか迷っている人は行くべきです。この留学で何を学びたいのか明確な目標を持って参加すると得られるものはより大きいものになると思います。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路はまだ明確には決まっていないのですが、自分の将来を考える上でこの留学は私の進路に大きく効果的に影響を及ぼしたと思います。この留学での経験は、より現実的にあらゆる側面から物事をとらえること、考える力を身につけさせてくれました。海外に暮らすことが夢だった私にとって、自分に何が必要なのかが分かった気がしました。英語を話すことができる世界の人とコミュニケーションが取れるようになるので、自分の視野

も広がったと思います。将来の夢はまだ明確には決まっていますが、日本と海外を繋ぐことができるような職業に着きたいと思っています。また、引き続き英語を学び続けることもこれからの目標です。

V. 写真



これはメルボルンに旅行へ行った時に撮った Half Moon Bay の写真です。この夕日を見た次の日に日本への帰国のため友達と別れなければならなかったので、すごく心に染み込んだ景色でした。今まで見た景色の中で、本当に一番綺麗でした。あつという間の5か月間を振り返った瞬間でした。



この写真は私が特に仲の良かった友達 2人です。ほとんど毎日一緒にいました。言語が全く分からなくてもいつも私を理解しようとしてくれ本当に大好きで大切な友達です。

T. M.（社会システム学科・3 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は大学入学時から漠然と留学をしたいという気持ちがありました。しかし金銭、そしてコロナの状況から留学に行くことを躊躇っていました。しかし英語を勉強するにつれ、より実践的な英語力を身につけたい、慣れない場所で自分を成長させたいと思いセメスター語学留学への出願を決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

コロナ渦で渡航ができるのかギリギリまでわからなかったので、飛行機のチケット、ビザ、保険等の手続きもギリギリでした。ビザは個人で取得することも可能ですが、私は業者を通して取得したのでスムーズに取得ができました。あとは現地に着いたらやりたいこと、目標を明確に立てました。学習面では日常会話について勉強しました。また今の実力を測るために TOEIC も受験しました。

③ 現地到着後

現地に着くと事前をお願いしていた送迎サービスの方が出迎えてくれ、ホームステイ先まで送ってくれました。オリエンテーションの 3 日前に現地に到着していたので、オリエンテーションまでの数日間、ホストマザーが学校までの行き方や洗濯機の使い方等を教えてくれました。またその期間に在留届や学校の準備なども行いました。オリエンテーションの 3 日前くらいに現地に到着するのがいいと思います。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

施設はとてもきれいなところでした。お金はかかりますが大学内にはジムや bar などもあるので息抜きにおすすめです。先生は各クラス 2 人いて交代で教えてくれます。先生によって教え方や授業の進め方が全然違うので変化があり楽しいです。

b. 授業内容・課題・試験

授業内容はクラスにより異なります。DEP1~DEP7（DEP7 は大学進学を考える人のみ）まであります。5 週ごとにテストが行われ、その都度クラスが変わります。課題は先生によるとは思いますが、私の時はそんなに多くはなかったです。

⑤ クラブ・課外活動・ボランティア活動

クラブやボランティア活動には参加できませんでしたが、大学のイベントに何度か参加しました。

⑥ 現地での住まいについて

私のホームステイ先はファザー、マザー、シスターが2人と猫が2匹いました。凄く優しい家族で色々な体験をさせてくれました。休日には親戚の集まりに参加させてもらうことや一緒にお出かけすることも多かったです。ファミリーの仕事の都合上、平日は20時ごろに就寝と早かったです。20時以降は部屋で勉強や映画を見て自分の時間を過ごしました。私は1人部屋で私専用のトイレとシャワールームもありました。私のホストハウスは駅やショッピングモールが近く凄く便利でした。トラムに乗り15分で大学に着くので学校へのアクセスも良好でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇はありませんでした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことはたくさんありますが特に印象的であったのは、シドニーに旅行にいったこととホストファミリーと移動式遊園地に行ったことです。シドニーではフェリーに乗ったりオペラハウスを生で見たりして楽しかったです。日本では移動式の遊園地は見かけないのでとても印象に残りました。ホストシスターと一緒に思いっきりはしゃいで凄く楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

現地でコロナに感染してしまったことです。留学期間も残り僅かな時だったので外出できず隔離しなければいけなかったのが非常に辛かったです。また帰国が困難になり、領事館に連絡、航空券の変更など、手続きがあり苦勞しました。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

私の家の近くのショッピングモールでは平日は18時、休日は16時にお店が閉店します。日本では考えられない時間で、あまりの早さに驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

パソコンは授業で使用するので必須です。あとはバッテリー類や風邪等の薬は絶対に持っていくべきです。変換プラグも現地ではあまり見かけないので、2、3 個持っていくといいと思います。

ドライヤーは現地で買えるので、こだわりがなければ向こうで買っていいと思います。

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

明らかにリスニング力が向上しました。留学前と留学後で TOIEC を受けたのですが、リスニングのスコアが上がりました。また大学での英語の授業は以前よりも聞き取りやすく感じるようになりました。また現地では環境の変化、トラブルがありましたが、留学当初に比べ、冷静に状況を把握して行動できるようになったと思います。また初対面の人にも積極的に話せるようになったと感じます。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に行く前は現地での生活やコミュニケーションなど不安を感じることは多いと思います。私は留学で海外へ行くのが初めてだったので凄く緊張と不安がありました。ですが日本では感じられない貴重な経験がたくさんできます！自分から話しかけることやアクションを起こしたことで失敗したと思ったことはありません。わからないことがあれば、聞いたら優しく教えてくれます。周りは優しい人が多かったです。もし、今、留学に行くのを悩んでいる方がいるなら積極性と目標を持って挑戦してみしてほしいです。この留学は語学面でも精神面でも成長できたと自信を持って言えます。積極的に動けば動くほど楽しくて充実した留学になります。行くことが決まった方は貴重な時間、思いっきり楽しんでください！

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後は、更に TOIEC のスコアを上げたいと思い継続して勉強を続けています。またエアライン業界での就職を目指して現在就職活動を行なっています。実践的な英語を使えるように洋画や YouTube の活用や、現地で仲良くなった家族や友達とも連絡をとり楽しく英語に触れ合っていきたいと思っています。

V. 写真



授業後にみんなで遊びに行った時の写真です。みんなで思いっきり走って遊んで話して忘れられない思い出になりました。



サンライズを見にいきました。間違いなく今までで一番きれいな景色でした。写真よりも実物は遥かにきれいなのでゴールドコーストに行くならおすすめです！

M. K.（英語英文学科・3 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

学校のホームページを見ている時に、セメスター語学留学の募集をしているのを見つけたのがきっかけで留学を考えました。また、大学では英語だけで行う講義も多くあり、ネイティブの先生が行う講義をもっと理解するためにも自分の英語力をあげる必要があると感じ、留学を考えました。日本に居住しながら英語を身につけようとする、どうしても日本語を話す時間が長い日常生活で日本語を使う頻度が少なく、厳しい環境に身を置くことで英語力が早く確実に上がると考え、留学を決意しました。また、多民族国家であるオーストラリアでは様々な民族文化を学ぶことができ、大学で私が学んでいる異文化についての理解をより深めることができると感じたのがもう一つの理由です。異文化について学ぶためには現地の人とのコミュニケーションは必要不可欠であり大学の授業だけではなく実際に経験し学べるいい機会であると思いました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学までの間は部活と並行して書類の手続きを行っていたため、事前に計画していた事前学習はできませんでした。空いている時間に動画などを用いて英語を聞く時間を増やすようにしていました。ビザ申請手続きについては、項目が多く英語だったので大変ではありましたが、インターネットなどで調べると申請を助けてくれるサイトがあり自力でも申請ができました。自分が住んでいる地域では、海外渡航用のワクチン接種証明書の受け取りに2週間ほどかかったため、早く申請をするべきだったと思いました。

③ 現地到着後

空港からホストファミリーの家までは業者の方が車で送ってくれました。3人まとめた送迎で1番最後だったため到着したのは2時間後くらいでした。オリエンテーションの2日前に到着し、学校が始まるまでの間にハウスメイトのベトナム人にバスの乗り方や学校までの行き方などを教えてもらいました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

キャンパスは綺麗でした。大学内にはカフェがありましたが教室から少し距離があるため昼食の時以外はほとんど使っていませんでした。図書館やジムを使うことができ、よく友達と放課後に行っていました。語学学校のスタッフの方達はゆっくりと丁寧に話してくれるためとても理解しやすく、日本語を喋れるスタッフの方もいました。

b. 授業内容・課題・試験

5 週間ごとに行われるテストによってクラス替えが行われます。クラスの学生の国籍や年齢はバラバラで、いろいろな文化を知ることができました。しかし、夏休みの時期にはクラスの 3 分の 2 が日本人だったため、そこは少し残念でした。授業内容としては、上のクラスに行けば行くほど writing の時間が増える印象を受けました。課題も日によっては多く出るため、計画していた通りの自主学習の時間はほとんど取れず、課題をして 1 日を終えることが多かったです。

⑤ クラブ・課外活動・ボランティア活動

インスタグラムなどで探せば様々な活動を見つけることができ、気になったものに参加したりしました。アイススケートを滑ったり、アジアの地域の食事をみんなで楽しんだり、楽しい活動がたくさんありました。また、語学学校の生徒たちで放課後にバスケットコートでバスケをしていたので、授業が終わった後も英語を使う場があり、そういった場に積極的に参加することが大事であると感じました。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先では、ホストファミリーとは別の自分が自由に使えるお風呂・トイレがありました。食事は料理が得意なおばあちゃんであったため、とても美味しかったです。家にはプールもありましたが、留学時は寒かったので使えずに終わりました。通学距離はバス停まで 15 分程度歩きそこからバスに乗り 45 分ほどの距離でした。周りの友達と比べて遠かったですが、家の近くにスーパーマーケットがあり、バスもたくさん本数が出てたため便利でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

期間が 15 週間と短かったため、長期の休暇はありませんでした。そのため、週末を使い 1 泊 2 日でシドニーに旅行に行ってきました。シドニーは観光地が同じ箇所に集まっていて 2 日でも十分に観光できました。また別の週末にはブリスベンにも行きました。2 時間ほどで行けるため長期休暇がなくても行きやすいと思います。もし、長期休暇があればメルボルンに行きたかったなと思いました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

放課後に図書館で過ごしていたことが 1 番思い出に残っています。授業が 3 時ごろに終わり 5 時半ごろまで毎日図書館で友達と喋っていました。課題をしながらわからないところを教え合ったりスペイン語などを教えてもらったりしたことが思い出に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

最も苦勞したことは、最初の 3 週間でした。私が語学学校に行った時にはもうグループが既にできていたため話しかけることに苦勞しましたが、みんな優しいため少し経てばすぐに話せるようになりました。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

授業中によく水を飲みに行ったり、リンゴを食べたりしているのが文化の違いだなと感じました。また、授業中の発言頻度など、積極性が日本人よりもあり、見習わないといけないところだと感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

特に役に立ったのはスリッパでした。家では靴ではなくスリッパで過ごしていたのですごく助かりました。靴下を干すための物干しも役に立ちました。パソコンは授業で使うため必須であると思いますが有線のイヤホンもあると便利です。私の場合はお茶のティーパックも持って行ってよかったと感じました。

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前と留学後で圧倒的に変わったのは英語に対する感じ方です。英語を話すことが恥ずかしいといった、英語に対する苦手意識がなくなったことが語学力の向上につながりました。TOEIC も 200 点近く上がりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

日本とは全く違う場所で学ぶのでたくさん不安なこともあるかとは思いますが、日本にただでは得られない経験や考え方に出会えるので、迷っているなら是非行くべきだと思います。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学先で学んだ英語力をさらに向上させつつ、様々な国の文化について学び、異文化理解を深めたいです。

V. 写真



放課後にクラスの人々と海へ行きました。かけっこをしたりビーチフラッグをしたりしました。夜の海はとても寒く冷えましたが、体を動かしみんなと交流を深めることができ、とてもいい思い出になりました。

T. M.（英語英文学科・3 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校生の頃 2 週間語学研修へ行った際に、ホストファミリーや現地の学生と上手くコミュニケーションが取れなかったことがきっかけで、もっと英語力を向上させたいと思い英語の勉強に力を入れ始めました。大学入学時点で自分の価値観や視野を広げるため、培った英語力を試す機会だと思い、大学 4 年間の途中で必ず留学すると決めていました。

② 留学決定から出発までの準備期間

大学主催の TOEIC だけでなく自分で申し込み受験するなど留学に行くまでに何度か受験し、自分の力を把握して渡航しました。また大学の Chat Room を利用してネイティブの先生と英語を話す練習をしました。ビザ申請手続きについてはコロナウィルスの影響で時間がかかったので、業者を通して申請しました。

③ 現地到着後

空港に到着すると、代行の方が名前を書いたカードを持って待っていてくださり、ホストファミリーの家まで送迎してくださりました。私はオリエンテーションの 3 日ほど前に現地に到着したので、ホストファミリーにバスの乗り方を教えてもらったり、現地を案内してもらったり、余裕を持ってオリエンテーションに参加することができました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

大学内の施設はとても充実していました。自習室や 24 時間の図書館、ジムやカフェなどがあり快適に過ごすことができました。スタッフの方もとても優しく、日本人のスタッフの方もいたので安心でした。

b. 授業内容・課題・試験

クラスは様々な国籍の人がおり、みんなそれぞれの考えや価値観を持っていて、授業を受けるだけで様々な国のことを知ることができました。クラスは 5 週間ごとにテストがあり、評価によってクラス替えがあります。私は DEP5 から始め DEP6 に上がりました。DEP5 ではグループで話し合うことが多く、積極的に話すことを目的とされていますが、DEP6 では大学進学のための授業の形で、よりアカデミックな内容のエッセイを書くなど、課題の量も増えるので放課後に友達と図書館で課題をすることもありました。

⑤ クラブ・課外活動・ボランティア活動

GELI では様々なアクティビティが開催されており、動物園に行きカンガルーに餌をあげたり、サメに触ることのできる庭園、学校のグラウンドでビーチバレーをしたりするなど、積極的に参加していました。またクラブ活動では大学のバドミントンクラブに毎週日曜日に参加していました。そこでは日本人が自分だけだったのでみんなが日本について話しかけてくれてたくさんの友達を作ることができました。費用はかかりますが、大学の友達を作ることができ、とても良い機会でした。

⑥ 現地での住まいについて

私のホストファミリーは過去に何度も日本人留学生を受け入れていて、日本のことがとても好きな方だったのでとても優しくしてくださり、快適に過ごすことができました。食事はお肉やパスタなどをよく出してくれ、たまに日本料理を作ってくれることもありました。学校まではバスとトラムを使って行きました。通学時間は45分ほどでした。語学学校に通うので日本のように学生割引や定期がないので思っていたよりも交通費がかかったのは想定外でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇はありませんでした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

語学学校で仲良くなった友達と毎日のように帰り道にビーチへ寄ったり、カフェに行ったり、買い物をしたり、週末には少し遠いところへ出かけたりするなど何気ない日常がとても楽しかったです。語学学校最後の日にいつも仲良くしていた友達がサプライズでケーキを用意してくれて、みんな泣いて日本に帰らないでと言ってくれたことがとても印象に残っています。本当に良い友達をたくさん作ることができました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

あまりつらかったことはありませんが、苦勞したことを挙げるとすると授業中の発言です。なかなか自分の伝えたいことをうまく言葉にできず、自分からみんなの前で積極的に質問したり、意見を伝えることが最初はできませんでした。徐々に環境に慣れてきてクラスの友達とも打ち解けると、話せるようになりました。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

バスが時間通りに来ないことや、バス停で待っていても手を上げなければそのまま通り過ぎることがよくありました。またバスの中には次のバス停などのアナウンスがないため

初めてバスに乗る場所では大変でした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

パソコンは必須です。学校の授業で必ず使うので使い慣れた軽いものを持っていくと持ち運びも楽だと思います。役に立ったものとしては、洗濯ネットや日本の薬、変換プラグなどです。日本であまり体調を壊したことはなかったのですが、寒暖差などで体調がすぐれない時に日本の薬があると安心でした。変換プラグはスマホやパソコンの充電など使う機会が多いので多めに持って行っておくと便利です。

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学の成果としてスピーキング力とリスニング力がかなり向上しました。TOEIC の点数も 100 点以上アップし 800 点を超えることができました。また外国人と話すこと、英語を話すことに躊躇いがなくなり、留学前と比べて自分に自信がついたと思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

5ヶ月間は本当にあっという間で、自分から進んで行動していかないと時間を無駄にしてしまいます。現地には同じように日本人の留学生がたくさんいると思いますが、できるだけ他の国籍の友達を作り、日本語を話さない環境を自分で作ることが英語力向上には最も効果的です。間違いを恐れずに様々なことへ挑戦することが留学生生活を成功させると思います。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

大学卒業までに TOEIC900 点を取ること、留学で培った英語力を落とさないように英語に触れる機会を増やして行きたいです。また日本の魅力を海外に発信できるような職業につきたいと考えています。

V. 写真



語学学校最終日のランチタイムにサプライズでケーキを用意してくれた写真です。国籍の異なる友達と本当に仲良くなれたことがとても嬉しかったです。今でもみんなと連絡を取り合っているので語学学校でできる友達は一生ものだと思います。



これは DEP6 の最後のクラスです。日本人の他に韓国、コロンビア、ブラジル、シンガポール、クウェート、中国、タイなど国籍が異なるので授業を受けているだけでも楽しかったです。課題がたくさんあり大変でしたが、DEP6 の授業をやり遂げて達成感を感じることができました。

R. N.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

大学入学以前から留学してみたいという思いを漠然と抱いていました。私は英語を「話せる」ようになりたかったのですが、ライティングやリーディングは日本でもある程度上達させることができても、スピーキングやリスニングは実際に海外に身を置いて学ぶ方が効果的だと確信していたからです。高校時代は部活動に明け暮れており留学する機会が無かったので、大学生こそは！と意気込んで入学しました。各国でコロナ感染が落ち着いてきたころ、同志社女子大学の HP でセメスター語学留学参加者の募集を見つけ、迷わず応募しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

語学勉強として、現地ではまず相手の話を聞き取ることが必須だと考え、リスニング練習を中心に行いました。また、TOEIC を受験し、海外渡航前の自分の実力を把握したうえで留学に挑みました。ビザ申請ですが、自分で全てこなすのは困難であると判断し、費用はかかりましたが業者さんに委託して代行していただきました。

③ 現地到着後

AHN のスタッフの方が空港まで迎えに来てくださり、車でホームステイ先まで移動しました。オリエンテーションは半日ほどで、大学内で使える Wi-Fi のセットアップを行ったり、先生方に大学の施設を案内してもらったりしました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

キャンパスがあるのは自然豊かな地域で周りには森があったので、キャンパス周辺で頻繁に野性のカンガルーを見かけました。どの建物もとても綺麗で快適に過ごすことができました。様々な国から学生が集まっているため、朝やお昼時に利用するカフェの種類はバラエティに富んでいて、海苔巻きやラーメンなどのアジア料理が食べられるお店もあります。また、図書館にはゲームができるスペースや 24 時間利用可能なスペースがあり、新鮮でした。大学のバスケットコートやテニスコートも自由に利用できます。

b. 授業内容・課題・試験

自分のパソコンを毎日持参し、OneNote を使って授業を受けていました。オンラインで授業を受ける生徒もいて、Collaborate Ultra という Zoom のようなシステムを使って教室

にはいない生徒ともコミュニケーションを取っていました。クラスごとに担当してくださる先生が二人ずついます。一週間のうち半分は A 先生の授業、もう半分は B 先生の授業という感じです。私は DEP5 と DEP6 の授業を経験しましたが、DEP5 以上のクラスではあまり文法の勉強はしません。将来社会人として英語を使うことを前提としたアカデミックな授業内容でした。1 ターム(5 週間)ごとに四技能それぞれのテストが行われ、その評価によってクラス替えがあります。1 タームで一発合格する生徒は少なく、ほとんどの生徒が 2 タームを同じクラスで過ごしてから次の DEP にレベルアップしていました。

⑤ クラブ・課外活動・ボランティア活動

GELI(グリフィスの語学学校)ではなく、グリフィス大学に通っている友達に誘われて、UNIGLOW という学生主催のサークルのイベントに参加したことがあります。毎回イベントを行う際にはインスタグラムで告知しており、自由に参加できるそうです。みんなでスケート場へ行き、アイススケートを楽しみました。

⑥ 現地での住まいについて

とても素敵なおうちに迎え入れていただきました。私の場合はホストマザーとその愛犬との穏やかな生活でした。自分の部屋には勉強机があったので、そこで日記を書いたり課題をしたりしていました。部屋の横には自分専用のバスルームと洗面所とトイレもあったので、とても快適でした。食事はピザやパスタ、カレーやうどんなど毎日様々でした。私のホームステイ先は最寄りのバス停までがとても遠かったので、毎朝と放課後はホストマザーが車で送迎をしてくださっていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

私たちのプログラムでは長期休暇がなかったのですが、休日は友達とビーチへ遊びに行ったりご飯を食べに行ったりと充実していました。ホストファミリーに日帰り旅行で隣の州に連れて行ってもらったり、マザーと愛犬と朝からビーチを散歩したりもしました。また、GELI でできた友達たちと一緒に、一泊二日でシドニーへ旅行にも行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

やはり一番楽しかったのは、現地で様々な国の友達ができ、会話をしたり遊びに行ったりしたこと。私にとって、外国人の友達ができるというのが初めての経験でした。様々な国の文化や価値観に触れたことはとても貴重な経験となりましたし、何より彼らと過ごした時間のおかげで、自分の会話能力を格段に向上させられたと感じています。もちろん授業も楽しかったですが、ランチタイムや放課後に友達と英語で会話をすることが、何よりも毎日の楽しみでした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

現地での生活で、楽しかったことと同様に苦労したのも、英語での会話です。日本人は私も含め、基本的にシャイで会話が苦手な人が多いと痛感しました。他国の友達たちが楽しそうに会話を楽しんでいても、自分の伝えたいことをうまく表現できなかつたり彼らの英語が聞き取れなかつたりして、とても悔しい思いを何度もしました。しかしそのもどかしい気持ちりが原動力となり、勉強に励むことができたとも思います。また、特にホストファミリーとの会話には苦戦しました。ネイティブの発音は、スピードも早くスラング混じりなので聞き取ることが難しいですし、日本人の発音はネイティブの人からするととても聞き取りづらいものです。ホストマザーとはよく時間をかけて円滑なコミュニケーションを取れるようになったと思います。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

・シンクいっぱい溜めた洗剤を溶かした水でお皿を洗い、そのまま乾かしたり拭いたりすることに驚きました。お皿に洗剤が残ったままなんじゃ…とと思っていましたが、次第に慣れました（笑）。

・誰かがクシャミをしたら、必ず「Bless you.」と言うことです。テスト中でも言っている人がいて本当に驚きでした。

・普通に外を裸足で歩き回る人がいます。

・スーパーに売っているフルーツなどを勝手にもいで味見している人を何回も見かけました。

・オージーは少量の雨なら傘をさしません。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

パソコンは授業で使うので必須です！それから、歯ブラシはサイズがとて大きいものしか売っていないので日本で買ったものを持っていくことをオススメします。生理用品も日本のものの方が使い心地が良いですね。また、変圧器は意外と必要無くて、変換プラグさえあればほとんどの日本製家電が現地で使えます。（ドライヤーは電圧が大きく使えなさそうだったので日本から海外対応のものを持参しました）変換プラグは何個か持って行くのが便利だなと感じました。

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学に行く前よりも発音がかなり良くなったと感じています。現地では、日本人特有のカタカナ英語は相手に全く伝わりません。日本にいる時とは違い、他人とコミュニケーションを取るためには正しい発音が必須なので、自然と発音良く話そうという意識が高まりました。

た。帰国直前頃には、日常会話レベルの会話をスムーズにできるようになっていました。また、TOEIC の点数も格段に上がりました。私の場合はリスニングがよく伸びて、合計 160 点ほどアップしました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

とにかく現地でしかできない経験をどんどんすることが大切だと思います。主体的に動かないと、せっかくの留学期間がもったいないです。私はホストファミリーや友達に遊びに誘われたら必ず行くようにしていましたし、自分から遊びに誘ったり話しかけたりしてコミュニケーションをととても大切にしました。ホストファミリーや友達と過ごすときも、とにかく会話を楽しみました。文法や単語の発音が間違っているかもしれないという不安は捨て、とにかく自分から話しかけまくったことが、結果的に成長に繋がったと感じています。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は、空港のグラウンドスタッフとして働きたいと考えています。その為にも、TOEIC の点数をあと 100 点ほど上げることを目標にしています。

V. 写真



これはホストファミリーに隣の州（ニューサウスウェールズ州）のビーチへ連れて行ってもらった時の写真です。一緒に住んでいたのはマザーだけでしたが、独り立ちした彼女の 2 人の娘とその夫たちとも関わる機会がありました。この日以外にも、みんなで集まって食事をしたりして仲を深めました。